

令和 7 年用うめ病害虫防除基準

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- この基準は、令和 6 年10月 1 日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散布時期		適用病虫害	薬剤名及び濃度 (水100 ℓ 当たり薬量)	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
① 発 芽 前 (3月中旬)			1. 水 (90 ℓ)			350 ℓ	1. 品種や系統によって発芽、開花期が異なることがあるので、適期防除に努める。	散布日 月 日 散布量 ℓ
			2. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)					
	縮 葉 病 (黒 星 病)	3. 石灰硫黄合剤 10倍 (10 ℓ)	発 芽 前	－				
かいよう病重点防除	② 落花直後	黒 星 病 灰色かび病 環紋葉枯病 すす星斑病	1. ベルコートフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	30 日 前 ま で	3 回以内	300 ℓ	1. ベルコート水和剤は、りんご・西洋なしにサビ果等の薬害が出るので注意する。 2. ホウ素欠乏の症状がある場合は、ヨーヒ B 5 1,000倍を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		か い よ う 病	2. マイコシールド 1,500倍 (66g)	21 日 前 ま で	4 回以内			
		アブラムシ類	3. ウララ D F 2,000倍 (50g)	7 日 前 ま で	2 回以内			
	③ 前回散布 7日後 (5月上旬)		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			400 ℓ	1. ホウ素欠乏の症状がある場合は、ヨーヒ B 5 1,000倍を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		黒 星 病 黒粒枝枯病 環紋葉枯病	2. トップジンM水和剤 1,500倍 (66g)	21 日 前 ま で	3 回以内			
			3. マイコシールド 1,500倍 (66g)	21 日 前 ま で	4 回以内			
		か い よ う 病	黒 星 病 重 点 防 除 1. この時期から黒星病の胞子飛散盛期に入るので、6月中旬まで散布間隔を10日以上あけないよう定期散布に努める。					
	④ 5月中旬 (5月15日頃)		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			400 ℓ	1. この時期以降日中の高温時の散布はさける。(25℃以内) 2. 前年黒星病の多発園地ではサルファーズルに替えて、スコア顆粒水和剤3,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。 3. かいよう病が多い園では、マイコシールド1,500倍 (21日前まで、4回以内)を散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		黒 星 病	2. サルファーズル 500倍 (200mℓ)	－	－			
		アブラムシ類 ケムシ類	3. マブリック水和剤20㊦ 4,000倍 (25g)	21 日 前 ま で	2 回以内			
⑤ 5月下旬 (5月25日頃)		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			400 ℓ	1. コスカシバの防除には、スカシバコンLを10 a 当り40～100本を設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ	
	黒 星 病	2. サルファーズル 500倍 (200mℓ)	－	－				
	アブラムシ類 ハマキムシ類	3. ダイアジノン水和剤34㊦ 1,000倍 (100g)	21 日 前 ま で	2 回以内				

散布時期	適用病虫害	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用 回数	散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
⑥ 6月上旬 (6月5日頃)		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10mℓ)			400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 星 病 す す 斑 病 灰 星 病	2. ナリアWDG 2,000倍(50g)	7 日 前 ま で	2 回 以 内			
	アブラムシ類 カイガラムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤 [㊞] 2,000倍(50g)	前日まで	3 回 以 内			
⑦ 6月中旬 (6月15日頃)	黒 星 病 す す 斑 病 (灰 星 病)	1. オーシャインフロアブル 2,000倍(50mℓ)	前日まで	3 回 以 内	400ℓ	1. アブラムシ類の発生が多い園では、スタークル顆粒水溶剤2,000倍（前日まで、3回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑧ 7月中下旬 (収 穫 後)	黒 粒 枝 枯 病 黒 星 病 環 紋 葉 枯 病	1. トップジンM水和剤 1,500倍(66g)	21 日 前 ま で	3 回 以 内	400ℓ	1. 黒粒枝枯病の被害枝は見つけ次第剪除し、土中深く埋没する。 2. カイガラムシ類の発生が多い園では8月上中旬にアプロードフロアブル1,000倍（7日前まで、2回以内）を枝幹に十分かかるようていねいに散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 ハマキムシ類	2. スミチオン乳剤 1,000倍(100mℓ)	14 日 前 ま で	2 回 以 内			
	ハ ダ ニ 類	3. ダニオーテフロアブル 2,000倍(50mℓ)	前日まで	1 回			
【特 別】 落葉後		1. 水 (90ℓ)			350ℓ	1. 例年、融雪が遅いところでは落葉後散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10mℓ)					
	カイガラムシ類 ハ ダ ニ 類 越 冬 病 害 虫	3. 石灰硫黄合剤 10倍(10ℓ)	発 芽 前	—			

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。
カイガラムシ類	1. 休眠期に粗皮削り、高圧水による洗流しやブラシがけを行う。 2. 見つけしだい捕殺する。

うめ施肥基準（成木：10a 当り）

品種・目標収量	肥 料 名	施肥量 (kg)	施肥時期	N	P	K	備 考
谷沢梅 1,500kg	燐硝安加里 S248 (わかみどり)	10kg	収穫直後	2.0	0.4	0.8	うめの施肥は収穫後できるだけ早く行い、分解・吸収させ、花芽の充実と貯蔵養分の確保に努めましょう。※若木については新梢の停止が遅れると、冬の凍害による幹割れからくる胴枯病の併発が懸念されるので、極力減肥し、有機物や土壌改良剤の施用に力点をおきましょう。
	フレッシュ フルーツ有機70	80kg	7月下旬	8.0	4.0	1.6	
	合 計			10.0	4.4	2.4	